

表1 枯葉剤散布地域と散布地居住人口

名称	面積 (km ²)		人口(人)	
	総面積	散布地域面積	総人口	散布地域居住人口 (推定)
ホーチミン	2,029	530	3,419,978	72,000
クアンビン、クアンチ、 トゥアティエンフエ	18,340	3,678	1,901,713	146,000
クアンナム、ダナン	11,989	2,639	1,529,520	103,000
クアンガイ、ビンディ ン	11,900	2,049	2,095,354	179,000
ザーライ、コントウム	25,536	3,301	595,906	42,000
ダックラック	19,800	727	490,918	62,000
フーイエン、カインホ ア	9,804	1,638	188,637	94,000
ラムドン	9,933	720	396,637	52,000
ニントゥアン、ピント ゥアン	11,374	1,918	938,255	88,000
ビンズオン、ビンフウ オック	9,899	4,217	659,093	152,000
タイニン	4,030	1,480	684,006	97,000
ドンナイ	7,578	3,773	1,304,799	300,000
ロンアン	4,355	582	957,264	91,000
ティエンザン	2,377	158	1,264,498	49,000
ベンチェ	2,255	444	1,041,838	189,000
ドンタップ	3,393	100	1,182,787	25,000
アンザン	3,493	11	1,532,262	3,000
キエンザン	6,358	298	994,673	35,000
カントー、ソクチャン	6,126	270	2,232,891	57,000
ヴィンロン、チャーヴ イン	3,854	306	1,504,215	10,000
バクリュウ、カマウ	7,697	1,126	1,219,595	104,000
バリアヴンタウ	249	36	91,610	9,000

(出所) 2010年12月6日にホーチミン市枯葉剤/ダイオキシン被災者の会におけるインタビュー時に
入手した資料に基づき筆者作成。

(注) 原資料に旧名で記されている際(の地方)には、その後に括弧つきで記された現在の地名を
記している。

表2 1961～1972年にベトナムで使用された戦術的枯葉剤の推定使用量

名称	成分	ドラム数 (1)	量(リットル)	散布時期(年)
グリーン (2)	2,4,5-T(トリクロロフェノキシ酢酸)	363 (3)	75,920	1962
ピンク (2)	2,4,5-T(トリクロロフェノキシ酢酸)	1,315	273,520	1961-1963
パープル	2,4-D(ジクロロフェノキシ酢酸); 2,4,5-T(トリクロロフェノキシ酢酸)	12,475	2,594,800	1962-1965
ブルー	カコジル酸	29,330	6,100,640	1966-1972
ホワイト	2,4-D(ジクロロフェノキシ酢酸); ピクロラム	104,800	21,798,400	1966-1972
オレンジ (2)	2,4-D(ジクロロフェノキシ酢酸); 2,4,5-T(トリクロロフェノキシ酢酸)	208,330	43,332,640	1965-1970
計		356,615	74,175,920	

(出所) Alvin L.Young[2009:5].

(注) 1 US Defense Supply Agency and Air Force Logistics Command records (Craig1975;Young 2006)、2008年3月現在のデータ。

2 これらの戦術的枯葉剤は2,4,5-Tとその関連汚染物質でダイオキシンの中で最も毒性の高い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾ-P-ジオキシン)が含まれる。ピンク剤はタイで1964年にテスト使用されたが、活用可能なデータは南ベトナムにおける最後のピンク剤ミッションは1963年であったことを示唆している。Daily Air Activity はしばしばパープル剤とピンク剤を取り間違えた。

3 ベトナムに送られた枯葉剤ドラムは、18-ゲージ鋼で作られ、208リットルあるいは55ガロンの内容物が入られ、薄められた状態でなく、濃縮された形で適用された。

表3 生年の分布

分布範囲(年)	該当数(人)
1971～1975	1
1976～1980	3
1981～1985	3
1986～1990	0
1991～1995	4
1996～2000	2
2001～2005	1
2006～2010	1

(出所) 調査結果に基づき筆者作成。

表4 家族構成員数と世代状況

家族構成員数(人)	該当戸数
1	0
2	1
3	9
4	4
5	1
家族世代数(戸)	該当戸数
1	1
2	13
3	1

(出所) 調査結果に基づき筆者作成。

(注) 両親が亡くなっているケース1例を含む。

表5 枯葉剤被災の経緯

被災の経緯		該当数(人)
直接		0
直接の可能性		1
間接	第2世代	8
	第2世代の可能性	2
	第3世代(可能性含む)	5
分からない		1

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表6 枯葉剤被災による心身への影響

障害の種類	該当者(人)
肢体	10
視覚	4
聴覚	5
言語	10
知的	10
精神・神経	13
重複	12

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表7 今後望んでいること

項目	該当数(人)
お金に関わる事項	11
お金・経済支援	5
家の建設	1
医療・健康	3
飲食	1
生活	2
養護(ケア)支援	1
職業訓練	1
社会への参入	1
なし	3

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

(注) 直接的な言及があったケース。

表8 最も心配していること

項目	該当数(人)
将来	6(1)
経済	5
ケア	5(1)
病気・健康	3
劣等感	1
飲食	1(1)
心配多すぎる	1

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

(注) カッコ内はご本人の応答。

表9 中央政府に対する要求

項目	該当数(人)
お金に関わる事項	12
お金・経済支援	8
家の修理	2
ケアに関わる支援	2
医療・健康	2
飲食	1
養護センターへの入所	1
なし	2

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

(注) 直接的な言及があったケース。

表10 地方政府に対する要求

項目	該当数(人)
お金に関わる事項	9
お金・経済支援	5
家の修理	1
ケアに関わる支援	2
医療・健康	1
飲食	1
なし	5

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

(注) 直接的な言及があったケース。

表 11 社会に対する要求

項目	親類(人)	隣近所
訪問	2	0
支援	4	1
関心	1	0
動員	1	0
ケア	0	1
なし	9	14

(出所)結果に基づき筆者作成。

(注) 金銭への言及は3人。
精神的な支援。

表 12 被災者支援策のなかで重視する領域

領域	該当者(人)
経済	11
医療	5
補助具	1
すべて必要	1
対象により変化	1
分からない	1

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表 13 各主体の役割(人)

	経済	医療	ケア	補助具	養育	教育	家の建設支援	仲介	訪問	関心・気持ち	動員	情報普及	寄贈	遊び
国	5	5		3		1			8	1			3	
家族	3	1	12		2									
隣近所	1								10	1	1		1	
親戚	3			1					8	2	2		1	
友人									1					2
ベトナム枯葉剤/ダイオキシン被災者の会	4	2		2		1	1	1	8			1	5	

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

(注) 網掛け部分は各主体のなかで一番該当数が多いケース。斜体はそれぞれの主体の中で最も多いケース。空欄は該当応答なしの意。ここではゼロと書き込むのを避けている。

表 14 扶助制度について知り得た情報源(人)

	人民委員会	村の集まり	病院	赤十字	退役兵士の会	新聞・雑誌	本	テレビ	ラジオ	家族	隣近所	友人
枯葉剤被災者扶助制度	2	0	0	1	1	2	1	2	0	0	1	1
傷病兵扶助制度	1	1	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0
障害者扶助制度	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
医療・保健情報	3	0	2	0	0	1	0	1	1	0	2	0
合計	7	1	2	1	1	3	1	5	4	1	3	2

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表 15 被災者個人の収入分布

収入幅(万ドン)	該当者(人)
0	9
1～10	1
11～20	2
21～30	1
31～40	0
41～50	0
51～60	0
61～70	1
71～80	1

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表 16 被災者収入に
国家扶助金が占める割合

割合幅(%)	分布数(人)
0	10
1～10	0
11～20	0
21～30	0
31～40	0
41～50	0
51～60	0
61～70	1
71～80	0
81～90	0
91～100	4

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表 17 家族収入に占める
被災者収入の割合

割合幅(%)	分布数(人)
0	9
1～10	2
11～20	1
21～30	0
31～40	1
41～50	0
51～60	0
61～70	0
71～80	0
81～90	0
91～100	0

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

(注)被災者収入はあるが、家族収入額が
定かでない2戸を除く。

表 18 被災者家族の収入分布

収入幅(万ドン)	該当戸数
0	1
1～50	2
51～100	1
101～150	0
151～200	5
201～250	3
251～300	2
301～350	1
351～400	1
401～450	0
451～500	0
501～550	1
551～600	1

(出所)調査結果に基づき筆者作成。

表 19 家族収入が不足した際の対処の仕方

分類		対処の方法	該当者(人)
私的	つながり	親類から借り入れ	6
		子どもに助け求める	3
		兄弟に助け求める	3
		隣近所から借り入れ	6
		友人から借り入れ	1
	ビジネス	闇金融から借り入れ	1
		商売人から借り入れ	1
個人	我慢	2	
公的	政治社会組織	農民会から借り入れ	1
		女性連合から借り入れ	1
	銀行	農業・農村開発銀行から借り入れ	1
		社会政策銀行から借り入れ	1

(出所)調査結果に基づき筆者作成。